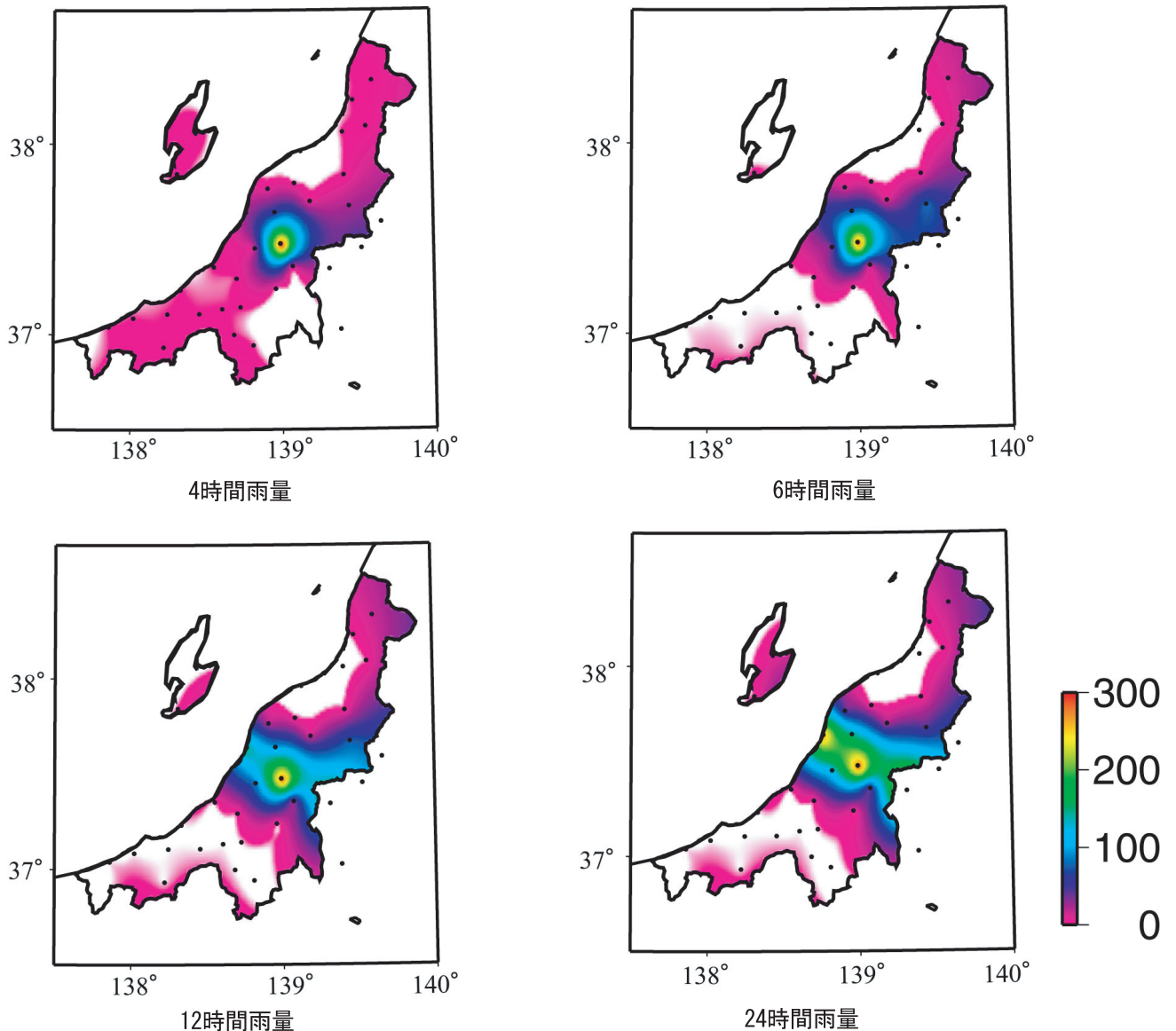


2 7.13新潟豪雨の「稀さ」

この図は、新潟県内AMeDAS観測所で観測された7.13新潟豪雨の、最大4時間・6時間・12時間・24時間雨量の「稀（まれ）さ」の空間分布を示している。「稀さ」の指標として、平均何年に一度起こるかを示す確率年を用いる。確率年の逆数が一年にこのような稀な雨が降る確率となる。図から分かるように、栃尾を中心に平均200年から300年以上に一度しか起こらない大雨が降った。しかも12時間と24時間の間に稀な雨の降る領域が大きくなっている。小さい範囲で短時間に激しい雨が降るのが近年の中小河川の水害の特徴のひとつである。



平均で何百年に一度の稀なことだから「関係ない」と考えるのは禁物である。確率年が250年、つまり毎年の発生確率が0.4%の稀な雨でも、人生80年の間に一度以上あう確率が27%ある。決して油断してはいけない。